



技術シーズ; 実験小動物の血圧測定



生化学・分子生物学講座 分子病態生化学部門

教授 扇田 久和

「簡便な血圧測定と降圧効果のある物質の判定ができる」

■技術シーズの概要

高血圧が長期間持続することで重篤な疾患が生じやすくなるため、そのコントロールは大切です。高血圧には様々なタイプがあり、研究者はこれまでそのメカニズム等を研究してきました。

その研究には、マウスなどの小動物を用いることが多く、右図に示す装置は非観血的に繰り返し簡便に血圧を測定できる点で優れています。血圧とともに心拍数も測定できます。さらに、物質(薬物など)投与前後の血圧を測定することで、その物質が降圧効果を有するかどうかすぐに判定できます。

■計測・評価例

- ・種々の物質等の降圧効果を簡便に測定することが可能
- ・共同研究として物質等の作用機序を調べることも可能

■研究者からの一言

- ・本学で唯一、実験動物を覚醒状態のまま非観血的に血圧測定ができる装置です。

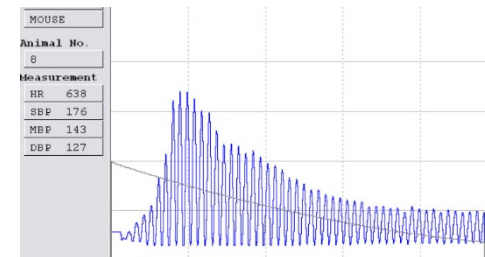
<現有機器>

Model: BP-98A-L



マウスの尻尾にカフを装着して測定

<実際の血圧計測定波形>



測定結果として、

- HR(心拍数)
 - SBP(収縮期血圧)
 - DBP(拡張期血圧)
 - MBP(平均血圧)
- が表示されます。

お問い合わせ先

滋賀医科大学 研究推進課 産学連携担当

077-548-2847 E-mail;hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp